

学校と地域が連携するには



子どもたちが生きる未来

※独立行政法人教職員支援機構「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ
～コミュニティ・スクールを核とした学校と地域の連携・協働～より引用

少子高齢化により社会は激しく変化 人口減少、財政難等の課題も深刻化

- ・2040年には少子化と人口流出により若年女性人口が半以下になる自治体（消滅可能性都市）が896に
※日本創生会議・人口減少問題研究分科会
- ・生産年齢人口は、半数に減少。
8,178万人（2010年）⇒4,418万人（2060年）
※総務省調査、国立社会保障・人口問題研究所調査

グローバル化、情報化等により、 変化が激しく予測困難な未来

- ・子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。
※キャシー・デビットソン氏(ニューヨーク市立大学愛学院センター教授)
- ・今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。
※マイケル・A・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授)

学校



地域



パートナーとしての
連携・協働関係

前回の補足になります。学校は、保護者にとっても地域住民にとっても学び合いの場です。子どもは大人から、大人は子どもから、互いに多くのことを学びます。現在、地域のコミュニティの希薄化が問題となっていますが、子どもたちの活動支援に積極的に協力する大人が増えています。学校支援に集まった大人たちは、学校支援だけでなく活動を通して得られたネットワークを基に新たな「地域での学び」や「地域での活動」につなげ、人と人を結び付けていきます。そのネットワークをつなぎ、学校と地域の橋渡し役を担うのが地域コーディネーターです。地域の志ある人たちと学校が一体となって、公立の小・中学校の教育活動を支援していきます。学校は「地域にどこまで協力を求めてよいのか、どのような方々がいるのか分からない」。地域住民は「学校への関わり方が分からない。協力できることはしていきたい」。このようなときに地域コーディネーターは、学校支援活動に必要な人材を地域から探し出し、学校へ紹介し、学校と地域の橋渡しを担います。



◎学校と地域との連携について、それぞれの学校で動きだしています。様々な場面で、学校・地域・保護者が三位一体となって連携・協働しています。「まだまだこれから…」「なかなかうまくいかない…」「手づまり感が…」等々の声を、研修の際に聞くことがあります。「できること」「関われること」「始められること」から動き出すことが肝心なのではないでしょうか。